

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400138		
法人名	(株)ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	出雲ケアセンターそよ風		
所在地	出雲市今市町876-9		
自己評価作成日	令和4年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3290400138-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和4年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出雲市駅から徒歩5分で、出雲市の街の中心部に位置しており近所には商店も多い。交通の便も良くご家族の面会も定期的にある。他事業所も併設しており、デイサービス、ショートステイと外部からのご利用者との交流もあり活気ある施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは出雲市の中心部に位置しており、付近に商店もあり、買物にも出掛ける事も可能です。また、出雲市駅から徒歩5分という立地もあり、交通の便も良いので家族の方も面会等訪問しやすい環境となっています。出雲ケアセンターそよ風として3階建となっており、1階にデイサービス、2階にショートステイの各事業所があり、3階がグループホームとなっており、事業所間のご利用者間の交流の機会ももたれています。食事は3食すべて手作りされており、家庭的な雰囲気の中、ご利用者それぞれに役割を持って頂き職員と共にお手伝いもして頂かれます。季節を感じる献立や誕生日会、行事食もあり食事を楽しめるような工夫がされています。コロナ禍でご家族が中々面会に来にくい状況の中、ご利用者の様子が分かるように毎月ご家族宛にお便りや写真をお送りし、家族との関係が切れなような工夫が行なわれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくところへ理念を掲示して共有している。理念に沿ったケアが出来るよう意識している。	常に理念等を意識出来る様、ホーム内に理念等を掲示しておられます。理念の沿ったケアが実践できるように心掛けておられます。	法人の理念を基にホーム独自の目標を職員で作成し、振り返りを行いながら自分達の理想のグループホーム近づけて行かれる事に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属し、職員が溝掃除に参加している。自治会長には運営推進会議に参加頂いている。	コロナ禍という事もあり、従来の様な交流が難しく気軽に近所に外出も難しい状況です。自治会に加入されているの、地域の自治会活動には可能な限り職員が参加されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(書面でのやりとり)によってグループホームの入居者の方の様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面でのやり取りの為報告は行っているが話し合いは出来ていない。書面により頂いた意見を報告し、疑問に対して返答を行っている。	コロナ感染拡大の際には、運営推進会議も書面開催で行ない、書面等で義検討も頂けていました。、10月には対面開催され、委員の方々にコロナ禍のホームの様子を報告し、今後のについてのご意見等を頂きサービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は運営推進会議メンバーでない為、会議報告書を送り報告しご意見ご質問を頂いている。	市役所は徒歩圏内にあり、相談等あれば電話や、直接出向く等関係を密にされています。運営推進会議の委員として市役所介護保険課職員として参加頂いていませんが、今市地区安心支援センターの職員の方に参加頂き行政と連携できるようにしておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を受け、身体拘束についての知識と理解を深めている。新しく入職した職員は都度研修を受けている。	身体拘束廃止委員会は毎月出雲ケアセンターそよ風全体で開催され、定期的に身体拘束についての施設内研修も実施し、職員は意識を持ちながらケアに取り組まれています。スピーチロックについても研修が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での研修を受け、各自がレポート提出し高齢者虐待について理解している。また、防止に努めて日々従事している。	虐待防止委員会も身体拘束廃止委員会と同時に開催し、指針も定められており、虐待についての施設内研修も実施されています。法人全体でNG (no gyakutai)プロジェクトを立ち上げ取り組まれています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当のご利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時ご家族に説明を行っている。納得を頂いた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会、電話等随時意見を頂くようにしている。また、介護相談員の訪問(R4.9から再開)を受けご利用者の意見を外部の方に直接言う機会もある。	意見箱の設置もあります。利用者とは毎日の会話の中から意見・要望を聴き取られています。家族へは毎月利用者一人ひとりの様子が分かるようお便りをお送りした際や面会でお越しの時、ケアプランの見直し時等に意見・要望を伺う様にしております。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長が今年交代し今後職員との面談を実施する予定	毎月ユニット会議に於いて、ホームの運営や利用者への支援方法等について、職員より意見や提案を述べられる機会が持たれています。本年度より職員面談が行なわれ、職員個々の思いや意見を聞く機会が設けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長は職員の要望に応えられるように給与の見直しをしたり、勤務する部署の調整を行っている。	職員の意識調査も行われており、できるだけ残業のないように、ワークバランスを考慮した勤務体系になるよう心がけておられます。意見の言いやすい風通しの良い職場環境を目指しておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内勉強会の企画、参加への呼びかけに努めている。	新人研修、階層別キャリアアップ研修の受講や毎月テーマを決めての施設内研修が行われています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近年は同業者との交流はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に調査を行い生活の様子を把握し必要な介護状況を把握し入居後継続して提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも話を伺い入居以前の様子を把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に老健への入所を希望され問い合わせたことがあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、テーブル拭き等出来る作業をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度相談・報告し、ご本人が良い状態で過ごせるよう一緒に考えて頂いている。職員で対応が出来ないことはご家族にお願いすることによりご家族と職員が話を行う機会にもなっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の流行の為面会や外出制限があったがその中でご家族との交流を図って頂いた。最近では外泊や外出も以前と同じように感染症対策を行いながらされている。	最もコロナ流行した際には面会や外出制限がありましたが、状況を見つつ家族・知人との交流の機会は取れるようにコロナ対策を行いながら行われています。外出・外泊の機会を持たれています。	手紙を書いて頂いたり、昔の写真を見ながら昔話をして頂き回想法へ繋げて行かれる事もいいと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席をご利用者間の関係性に配慮し都度見直しを行っている。食事はすべてのご利用者様がホールで行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまであまり機会がなかったが、今後あれば対応したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は意思を伝える事が可能な方には伺いを立て出来るだけ希望に沿った暮らし方を援助している。	職員は、利用者との日々の関わりや会話を通して、希望、意向の把握に努めておられます。利用者自身が難しい場合にはアセスメントや家族にご協力をお願いし意志等を推察しケアプラン等にも盛り込むようにしておられます。	利用者個々の生きがいや人生も目標に繋がりが期待されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活をご家族、本人から聞き情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者と日勤者が申し送りをを行い状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見を基に、医師・看護師・薬剤師からも意見をもらい計画書に反映させている。	利用者・家族等の意見・要望もお伺いし、職員、計画作成担当者、医師、看護師、薬剤師等、多職種連携で介護計画は作成されています。職員によるモニタリングは毎月、介護計画の評価・見直しは半年毎に行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテに移行後は記録が簡易的になっているが、申し送りノートを活用しご利用者の把握に努めている。	介護ソフトやタブレットの導入が行なわれ、記録についての教諭は行いやすくなっています。重要な事柄については申し送りノートを活用して職員間で共有しておられます。	特に、介護計画の変更点、気に成る点を丁寧に伝え共有しながら時系列変化等が分かりやすく記載して頂ける様心掛けられると良いと思います。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じセンター内のDS・SS利用をご家族がご利用されることもあり、ご家族も安心して利用されている。DS・SSの看護師が必要な医療処置を行うこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症の流行の為積極的な利用は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛かりつけ医との関係を大切にしてもらっているが、希望があれば往診が可能な協力病院への変更も出来る。	利用者・家族等に意志を確認し、従来からのかかりつけ医を選択して頂いています。現在多くの方が往診もあり、看取り対応もして下さる協力医をかかりつけ医とされています。往診の無いかかりつけ医の場合には受診は家族に行き、ホームでの様子を説明し病院で伝え診察の様子も戻られてからホームに報告して頂いております。歯科の往診も希望すればあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師が訪問し健康管理している。処置の方法や生活の中で気を付けること教えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の早いうちから状態を尋ねる電話を行い状態の把握や、今後の検査や処置について確認している。退院に向けて少しでも早く退院が出来るよう努めている。	病院の地域連携室との連絡を密に取り、入院の際にはホームでの様子等を伝え、利用者が安心して入院できるようにしております。退院時にも、カンファレンスを開催し、退院後のホーム内での過ごし方のアドバイスを頂いております。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針を説明し同意を得ている。看取りを希望され、看取りの状態に入られればカンファレンスを行い、関係者で意向、意思の確認をしている。	入居時には看取りについての指針を説明され、同意を得ておられます。実際に看取り期が近づいた段階で、再度家族等に現状可能なホームの対応を説明し、家族等、ホーム、かかりつけ医等で話し合わせ、最終の意向確認が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1階の事務所にAEDが設置されている。訓練はしばらく出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は夜間想定で年に2度行われている。地震想定訓練も行っている。	避難訓練は、年2回夜間想定で行われています。また、地震想定訓練も行われています。備蓄も準備しておられます。	BCP計画の作成については、確認をして頂きますようお願いいたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、馴染みの関係の中にも尊敬の気持ちを持った声掛けに努めている。	日頃より接遇に関しては気を付けるようしておられ、特に言葉遣いや声掛けの際に注意するようにしておられます。排泄、入浴の際にも、マニュアルに従いプライバシーに配慮したケアが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方にはどうされるかの選択や希望が表現できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さない程度に、本人の時間を尊重しながら生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選び、コーディネートされている。毛染めを希望される方は職員が定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮をむく・切る、テーブルを拭く等の出来ることをして食事の用意を手伝ってもらっている。	家庭的な雰囲気の中で、3食手作りで提供されており、食事の準備される音や匂いを感じられます。利用者の方も職員と一緒に出来るを事をお手伝い頂いております。季節を感じる献立や誕生会、行事メニューも提供されています。日々の食事が楽しみとなるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が確保出来るように声掛けをしたり、進むような好みの物を提供している。食事量が摂れない方は医師と相談し栄養補助ドリンクも飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ずつの能力に合わせて声掛け、見守り、介助を行い全てのご利用者様が毎食後出来るようにしている。	毎食後、利用者一人ひとりに応じて、声掛け、見守り、介助等を行い口腔内の清潔保持が行なわれています。義歯の方は毎晩洗浄剤につけ、清潔保持が行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ないところを支援しながら、時間毎の声掛けをし出来るだけトイレでの排泄に繋がるように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に応じた声掛け、誘導、介助等の支援を行い、トイレでの排泄が継続して頂ける様努めておられます。夜間も必要に応じて定期的声掛けが行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、ヨーグルト、牛乳等を積極的に摂ってもらい自然な排便が出来るよう支援している。便秘時は主治医にも相談し適切な下剤の量を処方してもらい定期的な排便があるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には一日毎に入浴して頂いている。声掛けをし本人の希望の時間帯(日勤帯のみ)に入浴してもらっている。	基本は体調を確認しながら、2日に1回入浴を楽しんで頂いております。声掛けを行い希望の時間帯など確認し利用者の意向に沿った形で入浴頂いております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間も昼食後に1時間程度の午睡をして頂いているが、習慣のない方はホールで過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が一括して管理しているが、薬の説明書等により職員も把握するよう努めている。ご利用者の症状の変化があれば主治医に伝え薬の調整を行って頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を継続してとっている方は毎日の習慣として新聞を読まれている。脳トレや塗り絵を楽しみにされている方もいるのでして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では遠方への外出はしていないが、自宅への外泊を定期的にされている方もいる。	ドライブ・花見等の行事で出掛けておられます。コロナが収束すれば従来の様に、職員と一緒に散歩や買物にも出掛けられる予定です。コロナ感染対策を行いながら、家族との外出や自宅への外泊の機会も持たれる方もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方は一人だけで、他は管理が難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書ける方には年賀状、暑中見舞いをご家族宛てに書いてもらっている。贈り物のお礼等本人に電話に出てもらい直接話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけストレスや混乱なく過ごして頂けるように、物を片つけるように努めている。季節を感じてもらえるよう壁の装飾品等配慮している。	温度、湿度管理や換気についても細やかに気配りされています。リビング等の装飾も季節感の感じられる落ち着いた雰囲気になるようにしておられます。限られた空間の中でできるだけゆったりと過ごして頂けるように心掛けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は決まっているが、ソファもあり自分の好きな場所で過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に使い慣れた物や、家族との写真等を持ってきてもらい、安心して過ごせるような支援をしている。	ご利用者に落ち着いて過ごして頂ける様、居室に在宅から使い慣れた物や写真等を持ち込んで頂く様家族等にも相談しておられます。部屋のレイアウトについても利用者本人に合うよう考慮し、ベットの位置等も調整をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前が書いてあったり、目印があり自分で帰室出来るよう配慮されている。転倒の危険がある方はセンサーが設置されておりセンサー音がなると安全に離床出来るよう職員が見守りや介助を行っている。		